

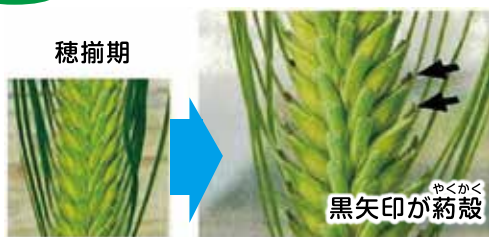


菊池中央・営農課
坂本職員

《病害防除》赤かび病

赤かび病は出穂前後から乳熟期にかけて、温暖・湿潤な天候が続くと発生しやすくなります。赤かび病の菌がつくりだすカビ毒には、人体に影響を及ぼすものがありますので、必ず防除を行ってください。また、麦の種類によって防除適期が異なりますので、生育状況を確認しながら、時期を逃さず防除を行いましょう。

大麦 では、穂揃い期から10日後頃



防除には早い

大麦防除適期

小麦 では、開花最盛期



防除には早い

小麦防除適期

《防除農薬》

ワークアップ粉剤DL 3kg/10aまたはワークアップフロアブル2000倍液を100ℓ散布/10a

トップジンM水和剤 1000倍液を100ℓ散布/10a

しっかり踏んで麦も子どもたちも強くなれ!

集落営農法人ネットワーク大津(株) 麦ふみフェスティバル

大津町の集落営農法人ネットワーク大津(株)で2月6日、地元の幼児や小学生約150人を招き「麦ふみフェスティバル」が開かれました。地域の子もたちが土に触れ、農業に親しんでもらおうと毎年開催しています。

ネットワーク大津のメンバーが「この麦はパン用の小麦ミナミノカオリです。みんなで麦を踏めば、麦も強くなり、みんなの体も強くなります。しっかり踏もう」と声をかけました。子どもたちは、24アールの麦畑に並び、ためらいながら麦を踏みました。慣れてくると楽しそうに1列約100メートルの麦を踏み、畑の中を走り回り、寒さを吹き飛ばしました。

ドラム缶転がし競争があり、チームごとに「頑張れ!頑張れ!」と大きなかけ声が飛び交い大盛り上がり。

頑張った子どもたちにぜんざいが振る舞われ「おいしい」と笑顔があふれました。

徳永浩二代表取締役は「地域コミュニティは、会社の理念の一つ。自然と生きていくことの大切さや農業への理解を深めてもらえたら嬉しい。地域のみんで子どもたちの豊かな心を育てたい」と話しました。



ドラム缶転がし競争で楽しみながら麦を踏む小学生ら

ネットワーク大津(株)は、2013年に設立した法人。経営面積は316haで、米・麦・大豆等を生産。土地利用型設立当初より麦踏み体験の他、田植え、稲刈りなど地域の子もたちへの食農教育に積極的に取り組んでいます。